



**新任** 南アフリカの子どもたちへ  
令和4年度 新任ALT就任あいさつ

新任ALTとなるスチュワート・タイロンさんが8月25日に市役所を訪れ、津谷市長にあいさつをしました。  
タイロンさんは南アフリカの東ケープ州セントフランシスベイ町の出身で、合川中学校、合川小学校、清鷹小学校で英語の指導を行う予定となっています。  
津谷市長は「子どもたちに南アフリカのことをたくさん教えてあげてほしい」などと話し、タイロンさんは「毎日日本語を勉強したい。南アフリカの国をまるごと紹介できることをとてもワクワクしている」などと話しました。



**贈呈式** 子どもたちの笑顔を守るために  
教育施設等への「除菌剤」贈呈式

新型コロナウイルス感染症拡大防止対策として、(株)タクト、シーバイエス(株)から除菌剤1,200個が寄贈され、曲田源章(株)タクト北秋営業所長と小野正智シーバイエス(株)課長代理が市役所第二庁舎を訪れ、その贈呈式が行われました。  
贈呈を受けて佐藤教育長は「小・中学校の始業式を迎え、マスク、手洗い、うがいなどの基本的な感染予防を徹底しながら、この除菌剤を大いに活用して子どもたちの笑顔を守っていきたい」などと感謝の言葉を述べました。除菌剤は、市内の小・中学校や社会教育施設で使用されます。



**協定締結** 子育て支援のさらなる充実へ  
聖園学園短大と子育て支援に関する連携協定締結式

学校法人聖園学園 聖園学園短期大学との子育て支援に関する連携協定締結式が、8月22日に市役所で行われました。  
この協定により、大学が持つ豊富な見識の提供と市内の子育て支援の場で学生が子育て支援学習を実践することで、双方の保育力の向上や保育環境の充実など、子育て世帯の不安軽減や保育の質の向上などが期待されます。  
津谷市長は「子育て支援への協力を得られることを心強く感じている。さらに子育て支援の充実と安心して子育てができるまちづくりを進めていきたい」などとあいさつしました。



**地域活性** 地域のためにできることを考える  
令和4年度 きたあきたこどもサミット

令和4年度きたあきたこどもサミットが、8月20日に市民ふれあいプラザで開催されました。  
今回は「きらり☆きたあきた～地域のためにできること～」をテーマに、市内小・中学校の代表者17人が参加しました。  
佐藤教育長は「楽しく住みよい地域にできるよう活発な意見交換をしてほしい」などとあいさつしました。  
参加者は、自分の考えを紹介し合いながらグループ協議を行い、活動を通して芽生えた思いや気づきを発表するなど、ふるさとの課題をそれぞれ振り返り共有しました。



**被災支援** 営農意欲が低下しないよう支援策を  
秋田たかのす農協が緊急要望書提出

8月の大雨による水田や農業施設などの被害を受け、秋田たかのす農業協同組合の小笠原隆志代表理事組合長、成田秀敏常務理事、田村純一常務理事が8月31日に市役所を訪れ、津谷市長に支援を要望しました。  
小笠原組合長は「農家の生産意欲の低下が懸念される。復興に向けて市の全面的な支援をお願いしたい」などと要望書を手渡し、津谷市長は「集落維持のためにも、農家の皆さんの経営意欲がなくならないように、希望を持てるような支援施策にしっかり取り組んでいきたい」などと話しました。



**特別企画** 縄文の魅力をもっと多くの市民へ  
ガイドと巡るスペシャル縄文デー

伊勢堂岱遺跡の世界文化遺産登録1周年を契機に、特別企画「伊勢堂岱遺跡・ガイドと巡るスペシャル縄文デー」が8月28日に同遺跡と伊勢堂岱縄文館で開催されました。  
この特別企画は、ふだんは事前予約が必要である遺跡ガイドが定時巡回することで、多くの市民に遺跡に親しんでもらうことを目的に行われました。  
この日は、伊勢堂岱縄文館の中嶋俊彦館長と職員が6回の定時巡回でガイドを行い、訪れた市民などが遺跡ガイドや特設飲食スペースでキッチンカーのランチを楽しんでいました。



**恒久平和** 平和の大切さを次世代に語り継ぐ  
令和4年度 北秋田市戦没者追悼式

北秋田市戦没者追悼式が8月23日に文化会館で行われ、戦没者遺族や関係者が黙とうや献花などを行いました。北秋田市出身の戦没者は、約1,700人とされています。  
式典では、津谷市長が「北秋田市は非核平和都市として再び戦争の悲劇が繰り返されることのないよう決意を新たにし、世界の恒久平和と人々の幸福を願い心豊かに暮らせる郷土を築くため、今後一層努力することをお誓い申し上げます」などと式辞を述べ、式の最後には出席者が献花と拝礼をし、戦没者の冥福を祈りました。



**贈呈式** 最前線で戦う医療従事者のために  
「医療用フェイスシールド」贈呈式

医療従事者等の新型コロナウイルス感染症予防として、(株)川瀬製作所から医療用フェイスシールド200個が寄贈され、同社秋田工場技術専門部門長の津谷義治さんが8月22日に市役所を訪れ、その贈呈式が行われました。  
贈呈を受けて津谷市長は「新型コロナウイルス感染症の終息がいまだに見えない中で、医療従事者の皆さんは頑張ってくれている。皆さんを応援・支援するために、このフェイスシールドを市の防災用と医療従事者の感染拡大防止のために活用したい」などと感謝の言葉を述べました。

